



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN  
**佐土原ロータリークラブ週報**

1996・97年度国際ロータリー・テーマ

国際ロータリー会長 ルイス・ピセンテ・ジアイ



1. 先達の歩みに敬意を払うことによって未来を築こう
2. 会員増強で未来を築こう
3. 職業奉仕の質を高めることによって未来を築こう
4. 次の世代を準備することによって未来を築こう
5. 平和な都市づくりに尽力し、未来を築こう
6. ロータリー財団を支援することによって未来を築こう

第439回 平成8年12月13日(金)

[本日のプログラム]

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 点 鐘</li> <li>2. ロータリーソング 「我等の生業」</li> <li>3. 食 事</li> <li>4. 会 長 の 時 間</li> <li>5. 幹 事 報 告</li> <li>6. 各 委 員 会 報 告</li> <li>7. 会員卓話 中武靖雄君</li> <li>8. 年 次 総 会</li> <li>9. 点 鐘</li> </ol>	<p>次 回 予 告</p> <p>*12月20日 新会員卓話</p> <p>*12月27日 全員協議会</p>
--	--

**佐土原ロータリークラブ**

例会日	毎週金曜日(12:30~13:30)	会 長	伊東忠寛
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	徳丸彰一
事務局	宮崎郡佐土原町大字下田島20614- 佐土原町建築業協会内	幹 事	赤木達也
	☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170	会 計	宮原建樹
		会費課長	垂水敏雄

## 第438回例会記録

(1996.12.6)

### ☆会長の時間

代理 副会長 徳丸 彰一 君

皆さん今日は、本日は第438回例会です。伊東会長が所用で出席できませんので、私が代行させていただきます。

はじめに本日のビジターをご紹介します。

あわじ緑RC 金崎 詳 継 君  
宮崎南RC 大木 正 坦 君

12月になると急に寒くなってきました。今年はインフルエンザが流行すると言われていました。

そんな折に、12月3日強い地震がありました。私の亡母が、11月など当然寒くなるべき時に暖かい日が続く時には地震が来るよ、とよく言っていました。

本当だったのかとも思います。先般の阪神大震災の後で、次は日向灘であると地震学者が予言していたようでした。

お互い地震対策には十分留意しなければならぬと考えます。

近頃、住民投票についての記事を新聞でよく見かけます。昔は、お上が一方的に決めことに対して住民が反対行動を起こす一揆がありました。命がけのことでした。現代は民主主義の時代ですが、住民が選んだ代表者が決めたことを、また住民が詮議するという、何となく無駄な、民主主義とかけ離れた風潮が生じているように感じられるのです。これは私だけの思い過ごしかも知れませんが。

### ☆幹事報告

赤木 達也 君

1. 例会変更通知は来ていません。
2. 国際ロータリー2730地区宮崎県中部分区I.Mについて  
開催期日 平成9年2月16日(日)  
場 所 ワールドコンベンションセンター サミット  
9:00~10:00 登録受付  
10:00 点 鐘  
10:25~10:40 基調講演  
海江田順三郎ガバナー  
10:45~12:15 全体会議  
「新世代プログラムについて」  
13:10~15:00 分科会  
「RI財団及び米山契学会について」  
「クラブ奉仕の活性化について」  
基本的に全員参加していただきたいとの伊東会長のご意向です。  
今月内に、個別に出席を確認させていただきます。

### ☆親睦委員会より

委員長 林 厚 雄 君

1. 12月セレモニー  
今月に、誕生日(ご夫人を含む)・結婚記念日をお迎えになられる次の方に、会長代理の徳丸副会長より記念品をお贈りして、会員一同心から祝福申し上げます。  
[誕生日祝い]  
柳田光寛君 林 卓美君  
郡司会員ご令室 神宮寺会員ご令室  
吉田会員ご令室 池田会員ご令室  
福井会員ご令室 垂水会員ご令室  
林 厚雄会員ご令室

[結婚記念日祝い]

田村勝二君 藤堂孝一君  
斎藤芳夫君 垂水敏雄君

2. 新年家族懇親会会場について

平成9年1月10日(金)に恒例の新年家族懇親会を開催する予定になっています。

会場についてのご希望を本日お聴きして決めたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

『神宮寺ホテル』ではいかがかという発言があり、出席者全員の賛同が得られましたので、そのように決定させていただきます。

当日は、例年のようにバザーを行いますので、お一人2点ほどお手持ちの品をご提供くださいますようお願い申し上げます。

☆出席報告

委員長 山本民生君

会 員 数	31名
H C 出席者数	22名
欠 席 者 数	9名
出 席 率	71%
メーカーアップ者数	5名
修正出席率	87.1%
欠 席 者 名	詞・秋・肝・土屋

☆池田仁志君より

12月3日～5日のパソコン入門講座後期『表計算入門・応用』の研修も無事に終わり、今回のパソコン入門講座を終了することができました。

ご参加くださいました皆様に厚くお礼を申し上げます。

奥様や娘さんなど女性の参加も多く、また研修講座を計画していただきたいとのご要望が強いようですので、来年の1月か2月頃に同様の『パソコン入門講座』を開設できるよう折衝したいと思います。

☆会員卓話 正岡文郁君

1996～1997年度の佐土原RC公式訪問報告書の表紙に、国指定重要文化財『木造騎獅文殊菩薩及び脇侍付天蓋一面』の写真が印刷してあります。

智慧をつかさどる文殊菩薩が、右手に剣、左手に経巻を持って獅子の上に座し、優土壇王・最勝老人・仏陀波利三蔵・善財童子の四人を従えています。

禅宗の道場に行きますと、必ず坐禅堂に文殊菩薩をお祀りしています。

大光寺の歴史の概略を申し上げますと、創建は1335年(建武2年)で、東福寺系のお寺でした。開山和尚は、京都東福寺17世乾峯士曇の弟子の嶽翁長甫です。私は大光寺56世になります。

江戸時代になって、宝永元年(1704年)に古月禅師が大光寺42世を継承しました。佐土原佐賀利の金丸家の生まれです。

『東の白隠、西の古月』と並び称された名僧で、“いろは口説”は人生訓の盆踊り唄として唄い継がれています。

次に、禅について少し話させていただきます。

11月14日に、宮崎西RCの例会に招かれ、会場の神田橋ホテルの畳の間で坐禅の指導をいたしました。その前には、

西都RCでも坐禅を教えました。

ホームクラブの佐土原RCでは、まだ一度もしていませんので、その機会があればと思っています。

坐禅は健康にも、美容にもよいそうです。是非お勧めいたします。

禅は今や日本を始め、アメリカやヨーロッパでも熱望されています。何故かと言いますと、禅の教えは過去も未来もいらない、即今、唯今にしっかり眼を向けて、己を把握しなさい、ということであるからです。

キリスト教などは、天に在します神があって、下僕の私がいる、つまり別々の存在なのです。禅の教えはそうでなく、人間は生まれながらにして仏と同じ素質を持っている、けれども修行が足りないから仏と同一にはなれないが、少しでも仏に近づくように努力しよう、そのプロセスが尊いのであると説いているのです。

仏教の浄土宗に例をとりますと、阿弥陀様にすべてお任せして、念仏を唱えるわけです。

禅宗の坐禅とは、自分のもともと有るものを発見する、つまり悟るために行うものであると言えます。

本山の生活信条の中に、一日一度は静かに坐って、体と呼吸と心を調えましょう（調身・調息・調心）、と提示してあります。坐禅は、見失った自分を取り戻し、しっかり自主性を掴んで自分で考え、自分で行動し、なにものにも動かされない腹ができて、健康で和やかに遅しく人生を生きる手段でもあります。

是非皆様も、坐禅のすばらしい境地を会得していただきたいと思います。（要旨）

”人の一生は重荷を負いて  
速き道を行くが如し、急ぐ  
べからず、  
不自由を常と思へば不足  
なし、  
心に望み起らば、困窮し  
たる時を思い出すべし、  
堪忍は無事長久の基、怒  
は敵と思へ、  
勝つ事ばかり知りて、負  
くる事を知らざれば、害そ  
の身に至る。  
己を責めて人を責むるな、  
及ぼざるは過ぎたるより勝  
れり”

人はただ

身の程を知れ

草の葉の

露の重きは

落つるものかな

—東照公遺訓—

慶長7年1月15日記  
(1602年)

-----  
会員卓話等の要旨の原稿  
ご提出を是非お願いいたし  
ます。

(会報委員長)